

〈開会式〉

豊かなスポーツ環境を目指して ーフォーラム挨拶ー

鹿屋体育大学学長 芝山 秀太郎



このたびは「スポーツ専門職のための実践的キャリアトレーニングプログラムの開発に関するCO-OP 国際研究フォーラム」のために、国内はもとより欧米諸国から多くのご出席をいただき、誠にありがとうございます。鹿屋体育大学の教職員を代表して、心より御礼申し上げます。また、本フォーラム開催にあたり、特別のご配慮とご協力をいただきました文部科学省はじめ、関係の皆様には深甚の敬意を表します。

本フォーラムは、高度で専門的なスポーツ指導者養成を目指す本学の教育研究の理念に基づき、特に、スポーツビジネス分野における専門家養成に向けたCO-OPプログラム開発の一環として、国内の体育・スポーツ系大学が行っているインターンシップや、国外の大学におけるCO-OPプログラムの取り組みなどについて意見交換を行い、それらの現状と課題から、日本におけるスポーツ専門職の養成のための新たな実践的キャリアトレーニングプログラムの開発をするための糸口を探ろうとするものです。

本学は開学当初より、日本唯一の国立体育系単科大学として社会体育の指導者養成に主眼を置き、学生が実践的な指導力を習得するための場として、2週間の社会体育実習が必修として課せられていました。社会の変化とともに社会体育は生涯スポーツという言葉に変わり、本学のカリキュラムも時代の要請に応じて改訂を重ねてきました。しかしながら、スポーツ振興基本計画や健康日本21などの政策にも見られますように、現代の社会において体育・スポーツの果たすべき役割はますます重要になってきています。そのような中で、体育・スポーツの専門家として有用な人材を輩出していくことは本学の使命であり、その使命を遂行するために、産学が連携して実践的なキャリアトレーニングに取り組むCO-OPプログラムの開発は極めて大きな力になると考えています。ひいては、わが国における体育・スポーツ系大学のフロンティアランナーとして、鹿屋体育大学の理念を未来へ引き継いでいきたいという思いも抱いています。

今回の国際フォーラムで得られた成果が、わが国の体育・スポーツ系大学における学生教育に大きく貢献するに違いないことを確信して、ご挨拶とさせていただきます。

スポーツ専門職のための実践的キャリアトレーニング プログラム開発に関する国際研究フォーラム挨拶

村 田 直 樹
文部科学省高等教育局審議官



スポーツ専門職のための実践的キャリアトレーニングプログラムの開発に関する CO-OP（コープ）国際研究フォーラムが開催されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

このフォーラムは、スポーツ関係学部等の学生がその専門性を活かして様々な職業分野で活躍できるような、日本における実践的なキャリアトレーニングプログラムを開発するため、その最初のステップとして、国内外のスポーツ関係大学等が実施しているインターンシップや CO-OP プログラムなどの現状と課題について討議することを目的に、鹿屋体育大学が企画し開催する運びになったと聞いております。

フォーラム開催の趣旨に賛同し、遠路はるばる世界各国、国内各地から参加されました皆様の熱意に心から敬意を表したいと思います。

近年、国際的な競技力の向上や、運動による健康づくりなど、スポーツに対する国民の関心はますます高まっており、これに伴って、様々な分野で、スポーツに関する実践的な知識・技能を持った人材が求められるようになっております。また、これに呼応して、スポーツに関連する分野を教育研究の対象とする大学・学部等も増加の傾向がみられます。

しかしながら、一部のトップアスリートは別として、大学での教育研究プログラムと就職との関連では、教員や公務員などの公的部門への就職を想定したものに比べ、ビジネスの分野を含む民間部門への就職を想定したプログラムの開発は必ずしも十分とは言えない状況です。

鹿屋体育大学は、学校における体育指導者のみならず、スポーツに関する幅広い分野での指導者の養成を目的に設置された国立唯一の体育系単科大学であり、今後とも、体育・スポーツという分野で、個性と特色を生かした教育研究を展開していくことが期待されています。このような高等教育機関としての鹿屋体育大学が、学生に対する新しい教育プログラムとして、スポーツという専門分野を活かしてビジネス分野等で活躍できるような、実践的キャリアトレーニングプログラムを開発しようとする試みに着手したことは、誠に意義深いことであり、時宜を得たものであると考えます。

2004年に国立大学が法人化されて以来、財務・人事等の制度全般にわたって、各大学の自由度が拡大し、競争的な環境の下で、魅力ある教育研究の推進が求められておりますが、文部科学省としても、各大学の特色ある取組を財政面を含めて支援することとしており、このたびの鹿屋体育大学の取組も積極的に支援してきたところであります。

このフォーラムの成果が、他のスポーツ関係大学等にも活用されるようなプログラムの開発として実を結ぶことを祈念するとともに、本フォーラムの開催に尽力されました鹿屋体育大学長はじめ、関係の皆様深く敬意を表しましてご挨拶と致します。